

HIV / AIDS 感染予防対策と生態系保存

大成建設(株) 社長室経営企画部 CSR 推進室
次長 渡邊達夫

大成建設は、「人がいきいきとする環境を創造する」という経営理念の下で、建設業を中核とする企業活動をおこない、安全で快適な社会基盤と生活環境の整備を通じて社会に貢献し、企業として持続的に発展することを目指している。

この目的達成のために、企業倫理の確立をはじめとする企業としての社会的責任を果たし、社会から信頼される企業づくりを推進している。その一環として、社会貢献活動においても地域社会との良好な関係を構築し、企業市民として社会の発展に貢献する活動に積極的に取り組んでいる。

本稿では、当社の海外事業におけるさまざまな取り組みの中でも、ゼネコンらしい特色のある地域社会への貢献活動について紹介する。

工事現場の感染症発生リスク

当社も積極的に手掛けている開発途上国における大規模インフラ整備は、物流や交通ネットワークの改善等を通じて地域の社会・経済の発展に寄与することが期待される一方で、HIV / AIDSをはじめとする感染症の拡大を誘発するリスクが懸念されている。

というのも、大規模インフラ工事で働く労働者の多くは地方や他国からの出稼ぎで、しかも働き盛りの男性である。彼らは現金収入を得るために、家族から遠く離れて暮らすという環境に置かれている。国・地域によっては、彼らを目当てに性産業が出現してくるという事態も生じる。さらに、保健・医療サービスを受ける機会も限られていたり、性感染症に関する知識・意識も決して高いとは言えないといったことが相まって、性感染のり

スクはますます高くなる。その結果、彼らが感染を知らずに故郷へ帰り、感染を広めてしまうというリスクも無視できない。

逆に言えば、短期間に大規模な労働移動が起こる建設現場であるからこそ、HIV / AIDSなどの性感染症に対する予防・啓発活動を継続的・効果的におこなえば、その波及効果は非常に大きなものになり得るということでもある。

作業員対象にエイズ予防研修会

当社は、インフラ整備事業を通じて HIV / AIDS 予防対策に取り組んでいる。現在、国際協力銀行 (JBIC) の円借款工事としてスリランカで施工している道路関連工事において、JBIC からの要請に基づき、工事請負契約の追加という形で盛り込まれた HIV 予防プログラムを実施している。

プログラムの内容は、作業員を対象とする約 3 時間の医療専門家による研修会を、6 カ月に 1 度の頻度を目安に、プロジェクト期間中を通じて開催するというもので、すでに昨年 6 月、12 月と



第 2 回研修会の様子

2回の研修会を実施している。

直近におこなわれた第2回の研修会を例にとると、インドネシア・中国・ネパールおよびスリランカ4カ国の作業員計69名に対する半日研修が4回開催された。参加者に対するインパクトは大きく、以下の効果が報告されている。

- *作業の都合で研修に参加できなかった仲間の作業員と情報を共有できるよう、作業所で研修会を実施して欲しいとの要望が強かった。
- *コンドームの使用に否定的だったインドネシア人作業員たちが、研修後にはその考えを改めた。
- *大多数の参加者が、HIV/AIDS およびその他の性感染症に関する血液検査の受診を希望した。

また、スリランカでの取り組みに先立ち、ベトナムの協力工場の作業所においても、JBICの積極的推奨のもと、当社JV作業所、CARE International Japan (NGO) および現地保健局が一体となった「HIV/AIDS 予防対策プロジェクト」に取り組んだ。

このプロジェクトでは、“性感染症への最大の予防は、正しい対策知識の「教育」である”と考え、次のような活動をおこなった。

- * HIV/AIDS など性感染症に関する理解促進キャンペーン
- * 政府関係者、地元企業、地域コミュニティとのミーティング
- * コンドームの無料配付と使用率向上のための情報提供



HIV/AIDS 予防啓発用のキーホルダー

これらの活動の結果、関係者の意識向上、労働者の生活習慣の改善とコンドーム使用率の向上など、成果が目に見えて上がった。

さらに当社JV作業所は、CARE International Japan と協力し、地域コミュニティを主な対象とする独自の HIV/AIDS 予防対策プロジェクトを実施した。



海草が根付いた移植マット

水域生態系の環境を創造

アラブ首長国連邦ドバイでは、政府系デベロッパーであるナキール社により、巨大人口島リゾート開発をはじめとするウォーターエリアの建設工事が進められてきており、その周辺部に創出する水域の環境創造に対する期待が高まっている。

当社は、ナキール社と共同で現地の静穏な水域に自生するウミジグサという海草に着目し、アマモ場（海草のアマモが群生する場所）再生で実績のある自然繁殖工法を応用して、魚類の産卵場・稚魚の育成場となる水域生態系の創造研究に取り組んでいる。

将来的にはドバイ沿岸域にとどまらず、世界各地のさまざまな水域生態系の環境創造への貢献が期待されている。

当社では、「人がいきいきとする環境を創造する」という経営理念を社会貢献分野において実践していくため、これらの事例のように、当社が事業活動をおこなう地域社会の課題に解決に資するような取り組みを、本業を通じてはもちろんのこと、本業を超えた取り組みとして、可能な限り進めていきたいと考えている。

◆大成建設の社会貢献活動

http://www.taisei.co.jp/about_us/csr/kouken/index.html